

R6
負担金

労働者協同組合労協センター事業団
(実施団体) 多機能福祉施設こもれび

×

学校教育課

2年目

行政
提案型

事業名 | 学びの下支えによる、子どもの意見表明支援に向けた新しい実践 ~子どもの視点
に立った貧困・ケアラー支援、いじめ防止等への対話的アプローチ~ (補助額 500,000 円)

【事業の目的】

- ・子どもの学びの場面に世代の近い大学院生等が加わり、対話的なアプローチをすることで、子どもは受け止められることにより日ごろの不安が和らぎ、存在感覚が根つき、声を発しやすくなる。最終的には子どもが意見表明できるようになることを目指す(根の力)。
- ・結果として、学校が子どもたちにとって安心安全な居場所になる(副産物)。

【事業の内容】

- ・学校内居場所「ふらっとるむ」の開催運営(週2回、こもれび、公益大生対応)
講師を招いて運営への助言をもらうことも予定。
- ・対話プログラム「RJ サークル」実施(1・2年生、2回開催(11月・1月))
- ・学校・地域での「対話」への理解促進施策(詳細は今後検討)
講師を招いてのモデル校教職員を対象にした対話ベースの事例研修会(8月)
地域向け対話プログラム講演会
- ・SNSによる情報発信



【成果目標】

- ・「相互に対話を行っている児童生徒の割合(最終年)」について、サークル実施毎に簡易アンケートを行い、対話が行えているかの指標の伸びにより効果を検証していく。



【事業の目的】

- ・猫は繁殖力が強く、年々野良猫が増え続けている。それに伴い、無責任に餌やりだけをする人と、糞尿被害等にあっている人の間で地域トラブルが多発している。不適正飼養や遺棄も増加原因のひとつである。
- ・過酷な環境で生きることを強いられた猫を増やさない為に不妊去勢手術が必要である。手術済みの猫を適正に管理することで地域トラブルを減少させる。

【事業の内容】

- ・対象学区を決める(必要に応じて協議が整った地域を追加する)※松陵学区他を想定
- ・地域猫活動説明会を開催
- ・野良猫の状況を調査後、TNR を実施
- ・地域猫サポーターによる地域猫の管理
- ・遺棄の防止啓発活動
- ・不適正飼養者への訪問指導

【事業の成果】

- ・対象学区での苦情、相談 に対し TNR の実施率100%

